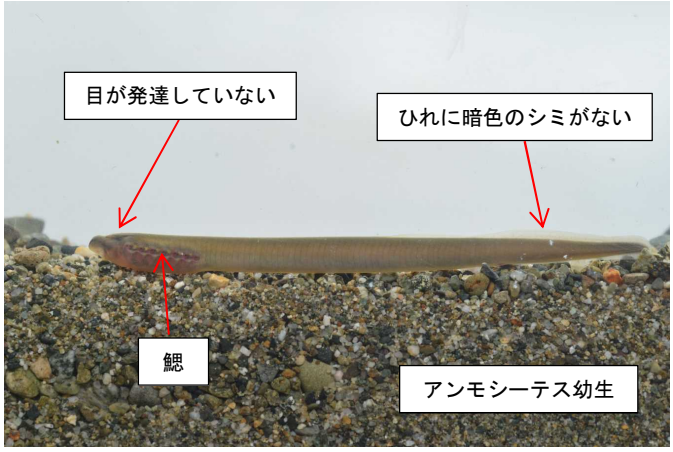


種 名 ：**スナヤツメ類**
（ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科）
分 布 ：北海道、本州、四国、鹿児島県・宮崎県を除く九州に分布する。
生息環境：河川の中・下流域に生息している。
体 長 ：20 cm くらい
重要種：環境省 RL（VU：絶滅危惧Ⅱ類）
新潟県 RL（NT：準絶滅危惧）

特徴：ヤツメウナギの仲間は円口類と呼ばれ、脊椎動物の中で最も原始的とされる。口が吸盤状であごをもたない。幼生はアンモシーテス幼生と呼ばれ、吸盤がなく、目は皮膚の下に隠れる。幼生の期間を約 3 年過ごしたのち、全長 14 ～ 19 cm で変態する。幼生は川の中・下流の柔らかい泥底に潜って、泥の中の有機物や珪藻類などを食べている。体側には 7 つのえら穴があって目と合わせて「八つ目」と呼ばれる。産卵期は雪解け水のおさまる 5 ～ 6 月で、礫底に集まって直径の小さな卵を産卵する。最近の研究で、長らく単一種として扱われてきたが、遺伝的特徴の異なる 2 型（北方型・南方型）が存在することが分かった。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●					

種 名 ：**コイ（コイ目 コイ科）**
分 布 ：日本各地に分布するが、古くから移植が盛んなため、自然分布の実態は明らかではない。
生息環境：大きな河川の中・下流域から汽水域、湖、池沼に生息する。
体 長 ：60 cm くらい

特徴：体はやや側扁した紡錘形で、口は吻（前方に突出した部分）端の下方にあり、尖る。吻はフナ属よりも長く、頭が三角形を呈する。口ひげは上あご後方と口角にそれぞれ 1 対ある。流れの緩やかな淵や落ち込みの底層部、砂泥底を主な生息場所とする。暖かい水を好み、冬には深い淀みに多数集まって越冬する。食性は底生動物を中心とする雑食性で、カワニナ、モノアラガイ、マメタニシ、シジミなどの貝類、ユスリカ幼虫、イトミミズ、ゴカイ類、さらに付着藻類、水草を食べる。餌のとり方は独特で、吸引摂餌と呼ばれる方法で行う。吻を砂泥の中に入れて、上あごを突出させてから、砂ごと餌を吸引する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●			●			

種 名 ：**ギンブナ（コイ目 コイ科）**

分 布 ：北海道、本州、四国、九州、琉球列島、また、朝鮮半島と中国大陸にも広く分布する。

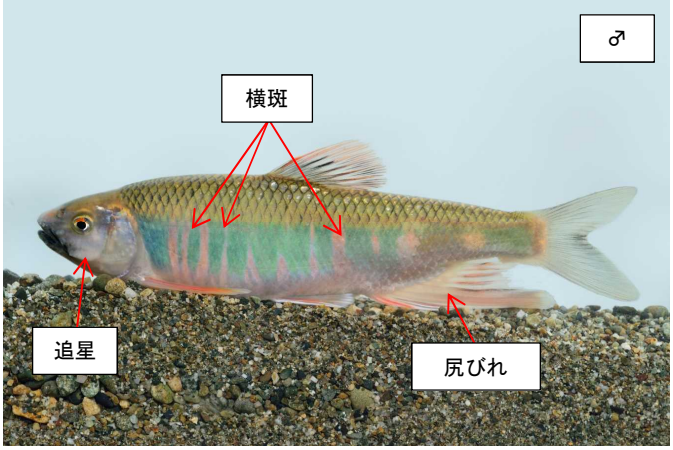
生息環境：川の下流の淀みや支流の合流点に近い水域、平地の低湿地帯や沼地に生息する。

体 長 ：25 cm くらい

特徴：尻びれ付近より後方で、体高が急にすぼまるように小さくなるのが特徴（ゲンゴロウブナでは緩やかにすぼまる）。体色はオリーブ色を基調として、背側は褐色、腹側は銀白色を帯びる。食性は雑食性で、底生動物および藻類などの他に、場所によっては動物プランクトンなども食べる。産卵期は 4 ～ 6 月で、大雨のあと、水草が繁茂している浅いところに集まり、水面に浮いた水草の葉や茎などに卵を産みつける。形態的にギンブナと言えるフナ類はほとんどが雌であり、無性生殖の一種である雌性発生という珍しい繁殖様式をすることが知られている。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●				



種 名 ：**オイカワ（コイ目 コイ科）**

分 布 ：北陸・関東地方より西の本州、四国の瀬戸内側、九州北部に自然分布する淡水魚。

生息環境：河川の中流域から下流域、湖沼などに生息するが、夏は浅瀬、冬は深場にいることが多い。

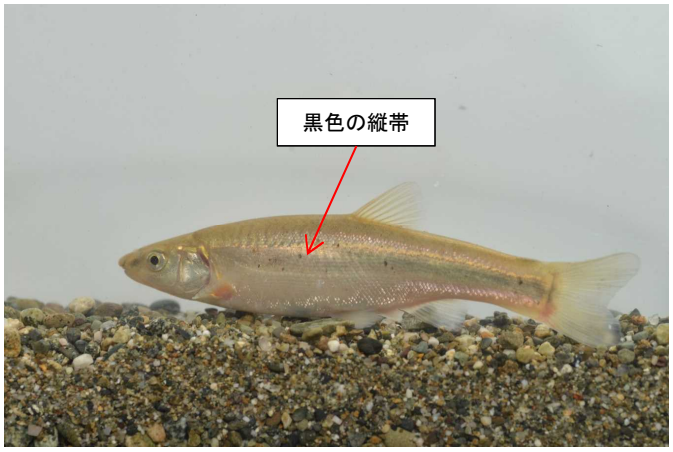
体 長 ：15 cm くらい

特徴：体は縦に扁平、腹側と体表面は銀白色、背側は淡褐色や灰色を帯びた青色をしている。雌雄共に尻びれがかなり大きく、側線は完全で、体側の中央よりもやや下あたりを縦走している。雄の婚姻色は極めて明瞭で、体側に鮮やかな赤や青緑色を帯び、また、特に頭部、尻びれ、体側などには明瞭な追星※を生じる。口ひげはない。雑食性で、主に付着藻類などを食べるが、水生昆虫、落下昆虫、底生動物、浮遊動物など、生息している環境によって様々なものを食べる。繁殖期は 5 ～ 8 月で、岸近くの流れの緩い平瀬の砂礫底で産卵する。

※追星（おいぼし）は、産卵期の雄の魚体に現れる白色の瘤状小突起物。皮細胞が異常に肥大・増成した二次性徴である。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●	●	●



種 名 ：**アブラハヤ（コイ目 コイ科）**

分 布 ：岡山県より東の本州に分布し、中国やアムール川流域、モンゴルなどにも亜種が分布している。

生息環境：山間の上流域から中流域にかけての淀みなど生息。時には下流あたりでも見かけられる。

体 長 ：13 cm くらい

特徴：体色は黄褐色で黒色の縦帯があり、この縦帯より背面には、小さな黒斑が多数散在している。淵や平瀬の底層にいることが多く、藻類や底生動物、水生昆虫などを食べる。産卵期は 4 月～ 7 月頃で、流れのある砂泥底に群れになって産卵する。昼間は淵の中層で、夕方は表層に浮いて流下物を食べる。冬季は岸部の草の間、川底、穴などに静止している。名前の由来は、体表面に粘液が分泌し、ぬるぬるしているので、アブラハヤの名がある。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●		●	●

種 名 ：**ウグイ（コイ目 コイ科）**

分 布 ：沖縄地方と四国の瀬戸内側の一部を除く国内に広く分布していて、朝鮮半島や中国東北部、ロシア東岸などにも分布している。

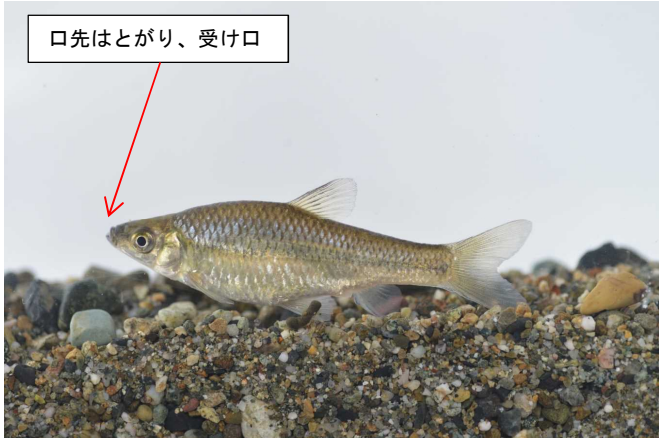
生息環境：河川の上流域から下流域、湖沼などに広く生息。水質汚染にも比較的強いなど、適応力にも優れている。

体 長 ：15 ～ 30 cm くらい

特徴：体は縦に扁平した形で、ふつうは体表面が銀白色で背側が黒褐色、腹側が乳白色をしている。口ひげはなく、側線は完全で、体表面の真ん中辺りを真っ直ぐに走っている。ウグイは一生を淡水で終える淡水型と、河川で生まれた後に海に下る降海型があり、汽水域や内湾、外海の沿岸部にも生息している。食性は雑食性で、付着藻類のほか落下昆虫や底生動物、他の魚の卵や小魚、さらに動物の死骸まで何でも食べる。産卵期は 3 ～ 6 月頃で、この時期には雌雄共に婚姻色を示し、体表面には 3 本のオレンジ色の縦帯が表れる。産卵は流れの緩やかな河川の瀬で群れになって行われ、礫底河床に粘着性のある直径 2 mm 程の卵を産卵する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●	●	●



種 名 ：**モツゴ（コイ目 コイ科）**

分 布 ：関東地方より西の本州、四国、九州に自然分布している。現在は北海道や東北地方、沖縄県などにも移入していて、日本全国に広く見られる。

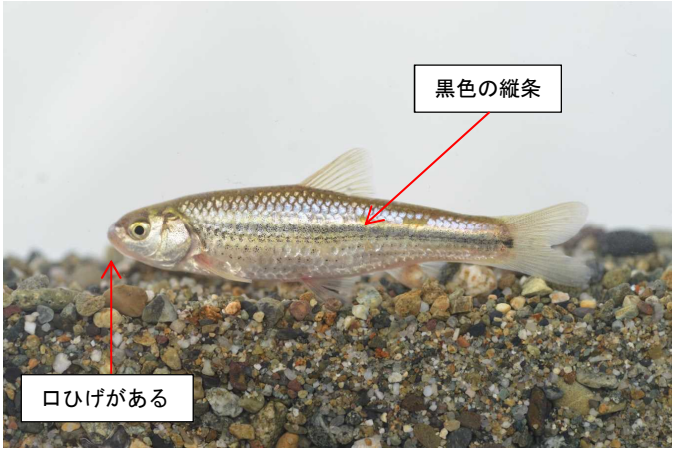
生息環境：湖や池沼、ため池などのほか、川の下流域などに生息する。

体 長 ：8 cm くらい

特徴：体は細長く縦に扁平、体色は灰色から銀白色、側線は完全で体側の中央を縦走している。普通はこの側線に沿って黒い縦線が見られるが、地域差や個体差があり、中には縦線が全く見られないものもいる。泥底の淀みにいることが多く、雑食性で、付着藻類のほか底生動物などを食べるが、成魚は主にユスリカの幼虫を好んで食べる。地方によって「クチボソ」と呼ばれるが、これは口が小さく、顔が細長いためにつけられたもので、口は頭部先端にあって、受け口で小さく、いわゆる「おちょぼ口」の感じがする。繁殖期は 4 月～ 8 月で、ヨシなどの植物のほか、石やコンクリートなどの表面に卵を産む。かなり汚染にも強い。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●		●	●



種 名 ：**タモロコ（コイ目 コイ科）**

分 布 ：太平洋側では静岡県、日本海側では福井県より西の本州や四国の東北部、九州北部に自然分布している。

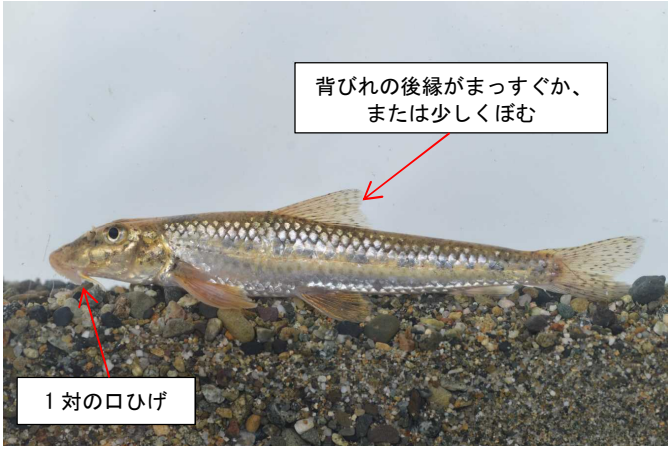
生息環境：川の中流域から下流域、細流や湖沼、ため池や水路などに生息しているが、川では川岸の流れの緩やかな所で生活している。

体 長 ：10 cm くらい

特徴：体色は銀灰色から灰白色で、背側は薄い茶色や緑色を帯びている。体はやや縦に扁平、ずんぐりとした感じがする。頭部先端は丸く、口はその下方にあり、二本の口ひげがある。体側中央には黒っぽい一本の縦条があり、側線は肩の辺りから急に下方に曲がっている。繁殖期は 4 ～ 7 月で、一匹の雌に複数の雄が集まり、産卵は細流や灌がい用水路、水田などで行われる。この時期の雄には小さい追星が表れるが、婚姻色は目立たない。タモロコは田んぼの脇の用水路に多く見られたことから名づけられたと言われているように、かつては馴染みの深い魚であった。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			●



種 名 ：カマツカ（コイ目 コイ科）

分 布 ：自然の分布域は岩手県・山形県より南の本州、四国、九州、壱岐などで、朝鮮半島西部から中国北部にも分布している。

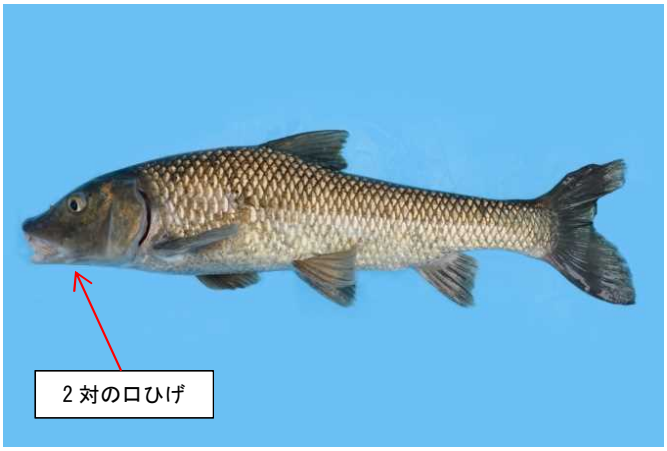
生息環境：河川の中流域から下流域、湖の沿岸、またこれにつながる小川や灌がい用水路などに生息しているが、流れが緩やかで水のきれいな砂底や砂礫底を好む。

体 長 ：15 ～ 20 cm くらい

特徴：体は細長く、前部が縦扁し後部が側扁する。口は吻端の下方に開き、口ひげは 1 対で、その長さは眼径に等しい。唇は多数の乳頭突起に縁どられる。胸びれを広げて水底にじっとしていることが多い。本種は雑食性で幼魚は藻類も食べるが、主に水底の水生昆虫類などを食べる。このとき吸盤状の口を岩などにくっつけたり、砂ごと口から吸い込んで鰓孔(えらあな)から砂だけを出すという珍しい吸引摂餌という方法をとる。繁殖期は 5 ～ 6 月で、この時期には雄の口やあご・眼のまわり・胸びれになどに追星が表れる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			●



種 名 ：ニゴイ（コイ目 コイ科）

分 布 ：本州、四国の瀬戸内側、九州北部などに自然分布している。

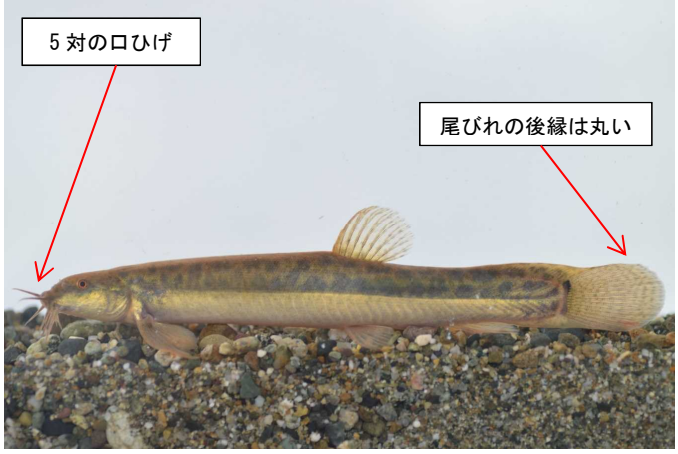
生息環境：湖や池のほか河川の中流から下流域、また汽水域まで広く生息し、水の汚れにも強く、流れの緩やかな砂底に多く見られる。

体 長 ：45 ～ 60 cm くらい

特徴：体は円筒状に近いが、わずかに扁平、体色は灰白色、背側は緑褐色をおび腹側は白っぽい。側線は完全で、体側の中央をほぼ真っ直ぐに走っている。また、胸びれや腹びれ、尻びれなどは淡いオレンジ色を帯びている。口は吻端の下方に開き、短い口ひげが 2 本ある。川の上などから見るとコイ(鯉)に似ていることからニゴイ（似鯉)と呼ばれるが、ニゴイの体は細長く、体高はコイよりも低い。食性は雑食性で、付着藻類のほか、突き出た口で水底の砂を掘ってユスリカの幼虫やカゲロウ・トビケラ類などの小動物や水生昆虫、また小魚なども食べる。繁殖期は 4 月 ～ 7 月で、この時期の雄は全身が黒っぽくなり、頭部に追星が表れる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●	●	●



種 名 ：**ドジョウ（コイ目 ドジョウ科）**

分 布 ：日本全国に広く分布している。

生息環境：水田や湿地、池、またその周辺の細流に多く生息しているが、河川の中流から下流域、用水路などの流れの緩やかな泥底にも生息している。

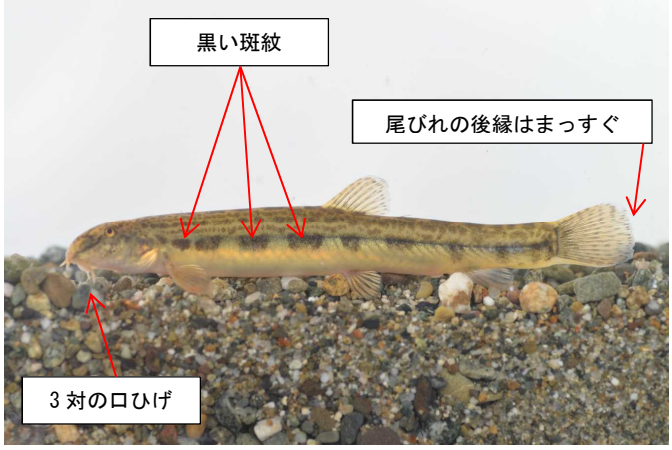
体 長 ：10 ～ 15 cm くらい

重要種：環境省 RL（DD：情報不足）

特徴：体は細長く、ほぼ円筒形をしている。体色は淡褐色や茶褐色、暗褐色などで、腹面は淡い。口は小さく下向きで、口ひげは 10 本（5 対）あり、6 本（3 対）は上唇、4 本（2 対）は下唇についている。鱗はきわめて小さく、皮膚の下に埋もれていて、体全体がヌルヌルとしている。食性は雑食性で、主に泥の中にある有機物や小動物を泥ごと吸い取って鰓耙(さいは)で選り分けて食べるが、底生藻類や付着藻類、イトミミズ、ユスリカの幼虫なども食べる。産卵期は 4 月から 7 月。近年、中国から近縁種のカラドジョウが移入され、全国的に増えている。在来種のドジョウと同所的な環境に生息し、競争することで駆逐することが考えられる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●	●	●



種 名 ：**シマドジョウ（コイ目 ドジョウ科）**

分 布 ：山口県西部を省く本州、四国、九州の大分県などの河川や湖などに広く分布。ただし、琵琶湖には生息していない。

生息環境：水のきれいな湖や池、河川では中流域から下流域に生息しているが、流れが緩やかな淵の砂底や砂礫底を好む習性がある。

体 長 ：12 ～ 14 cm くらい

特徴：体はやや縦に扁平で細長く、体色は全体に肌色で、体側の中央部には黒っぽい円や楕円形の斑が縦に並んでいる。背びれと尾びれにも小さな黒っぽい斑紋が不規則にあるが、成熟した個体はより規則的に並んでいる。頭部先端は丸みをおび、口には 6 本（3 対）のひげがある。また、鱗は小さくて、なかば皮膚の下に埋もれている。付着藻類などの植物質のほか、ユスリカなどの幼虫やイトミミズといった底生の動物も食べるが、餌は砂と一緒にとり込んで、鰓から砂を吐き出して餌だけを食べる。冬期には砂中で越冬し、4 月から 6 月に産卵期を向かえる。

信濃川および支川の分布

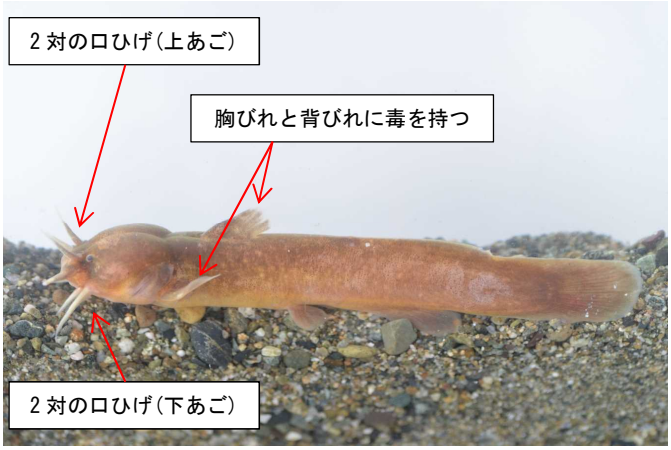
	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●		●	

種 名 ：ナマズ（ナマズ目 ナマズ科）
分 布 ：沖縄を除く日本各地
生息環境：主に河川では中流～下流に生息するが、水田地帯を流れるクリークや用水路、河川汽水域や汽水湖まで生息する。
体 長 ：50 cm くらい

特徴：口ひげは 4 本（2 対）。しかし稚魚は 6 本(3 対)ある。背びれは第 1 背びれのみで各ひれの中で一番小さく、あまり発達しない。尻びれは長く、尾びれとつながる。普段はあまりはっきりしない褐色をしているが、緊張したとき等でははっきりとした斑模様が現れる。また酸欠気味になると黄色味が強くなる。夜行性であるが、曇りの日や雨後では日中でもよく活動する。岩場や水草の繁茂する環境を好む。河川では中流域～下流域に生息し、湖では沿岸部に多い。食性は魚類中心の肉食性であるが、食欲旺盛な稚魚期では水草の茎を食べていることもある。産卵期は 5 ～ 7 月下旬で河川の水草の繁茂する浅瀬や水田などに遡上し、雄が雌に巻きついて産卵を行う。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●			●	



種 名 ：アカザ（ナマズ目 アカザ科）
分 布 ：宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。
生息環境：水の比較的きれいな川の中流から上流下部の瀬の石の下や間に生息。
体 長 ：10 cm くらい
重要種：環境省 RL（VU：絶滅危惧Ⅱ類）
新潟県 RL（NT：準絶滅危惧）

特徴：日本では 1 属 1 種で、日本の固有種。ナマズの仲間としては小型で、体長は最大 10 cm 前後。ドジョウのように円筒形の細長い体型をしている。口ひげは上あごに 2 対、下あごに 2 対の計 8 本ある。胸びれに 1 本ずつ、背びれに 1 本の刺条を持つ。刺条には毒腺があり、刺されると痛む。体色は暗赤色ないし明るい赤褐色で変異がみられる。夜間に活動することが多く、主に水生昆虫を食べる。産卵は 5 ～6 月で、ゼリー質で覆われた卵を、瀬の石の下に卵塊として産みつける。卵は球形で直径 3 mm を超える。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●				

種 名 ：**サケ（サケ目 サケ科）**

分 布 ：日本海側では九州北部以北、太平洋側では利根川以北に分布。

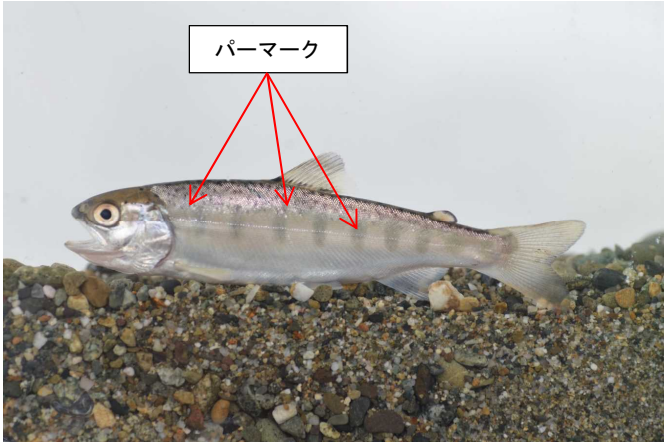
生息環境：河川の中・下流域～海域

体 長 ：65 cm くらい

特徴：砂利底から地下水の湧き出るところを産卵場とする習性をもつため、生息場所は川の中でも限られ、また河川形態によって異なる。生まれた稚魚の淡水生活期間が数日から長くても 1 ～ 2 ヶ月と短いことから、主に中・下流域が生息場所となる。産卵のための遡上は 10 月 ～ 1 月頃で、河川の湧水が出ている所などで産卵が行われる。産卵から 60 日で孵化し、さらに産卵床の中で 60 日を過ごす。3 月頃から遊泳生活に入り、水温の上昇とともに流れに出て小型の水生動物、水生昆虫を活発に食べながら生活域を広げ、そして海に向けて降下していく。その後、海を回遊して成長し、早いものは 2 歳魚で回帰するが、最も多いのは 4 歳魚。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●				



種 名 ：**ヤマメ（サケ目 サケ科）**

分 布 ：天然での分布域は本州の関東以北の太平洋岸と日本海側全域、九州の一部に分布している。

生息環境：川の上流などの冷水域に生息する。

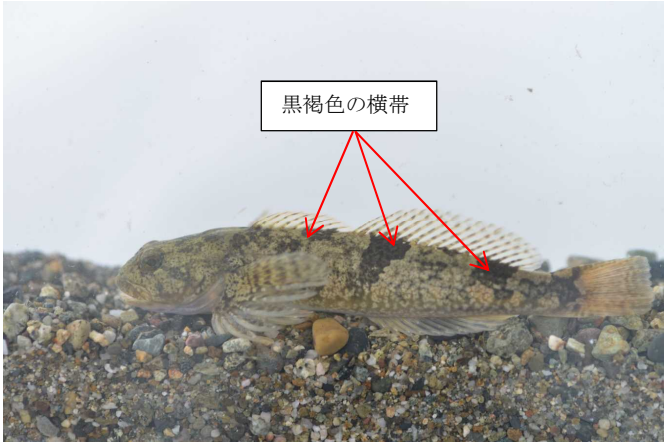
体 長 ：ヤマメ 30 cm くらい
サクラマス 60 cm くらい

重要種：環境省 RL（NT：準絶滅危惧）
新潟県 RL（NT：準絶滅危惧）

特徴：体の側面に上下に長い「小判状」の斑紋模様（パーマーク）があるのが特徴で、成長とともに次第に薄くなり、30－40 cm クラスになると一般には、サクラマスのような銀色に近い魚体となる。本州のヤマメは、イワナよりも下流に住むことが多い。ヤマメの生息場所は傾斜が急で、大きな転石や岩盤からなり、淵と早瀬が交互に連なるところである。水は極めて清冽、真夏でも 20℃を超えることは少ない。一般にヤマメの魚影が濃い川の両岸には広葉樹が多い。食性は動物食で、流れてくる水生昆虫、主にカゲロウ目と双翅目（ハエ目）の幼虫や落下昆虫などを食べている。産卵期は 10 月中旬 ～ 11 月上旬で、およそ紅葉の初期から盛期にあたる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料				●			



種 名 ：**カジカ（カサゴ目 カジカ科）**

分 布 ：日本固有種で、本州と四国を中心に九州の一部にも分布する。

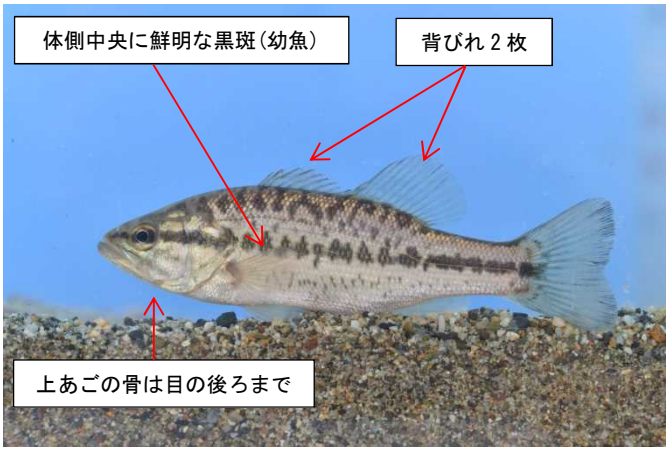
生息環境：河川上流域に生息していて、清冽な流れの主に瀬の石の下に多い。一生を河川で過ごす。

体 長 ：5 ～ 15 cm くらい

特徴：体色は淡褐色から暗褐色まで変異に富み、体表面には 4 ～ 5 個の黒褐色の横帯がある。頭が大きく、体表面には鱗がない。肉食性で、主に付着性の水生昆虫を食べるが、流下昆虫や底生小動物、小魚等も食べる。一生を淡水域で過ごし、大きな石の下等に産卵。産卵期は 1 月中旬から 6 月中旬で、瀬の石の下に雄がなわばりを持ち、雌を誘って石の下面に卵を産着させ、孵化まで卵を保護する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●	●	●		



種 名 ：**オオクチバス**
（スズキ目 サンフィッシュ科）

分 布 ：北アメリカ（原産国）

生息環境：湖、沼などの止水環境や流れの緩い河川に生息するが、汽水域でもしばしばみられる。

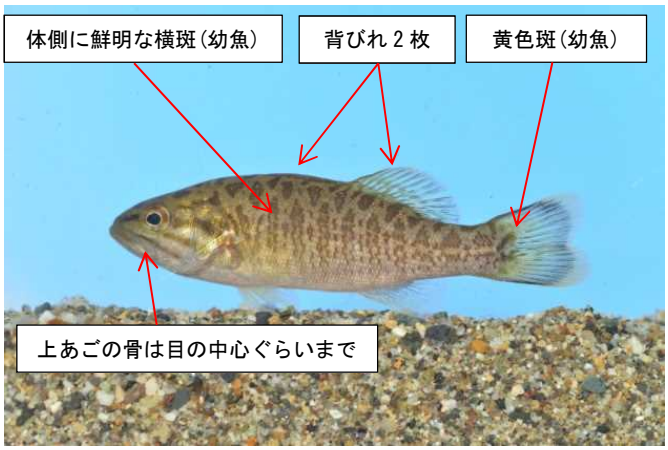
体 長 ：30 ～ 50 cm くらい

外来種：特定外来生物（外来生物法）

特徴：1925 年に神奈川県芦ノ湖に初めて放流された。以降徐々に分布が拡大し、コクチバス同様問題となっている。天敵から身を隠したり獲物を待ち伏せしたりするため、障害物の多い場所を好む。一方、回遊して餌を探す場合もあり、特に幼魚～亜成魚はしばしば群を作り隊列を組んで回遊行動を行うことがある。食性は肉食性で、水生昆虫・魚類・甲殻類などを捕食する。自分の体長の半分程度の大きさの魚まで捕食し、カエルやネズミ、小型の鳥類まで丸飲みにする。春から秋には岸近くで活発に活動するが、冬は深みに移り物陰に群れを成して越冬する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●				

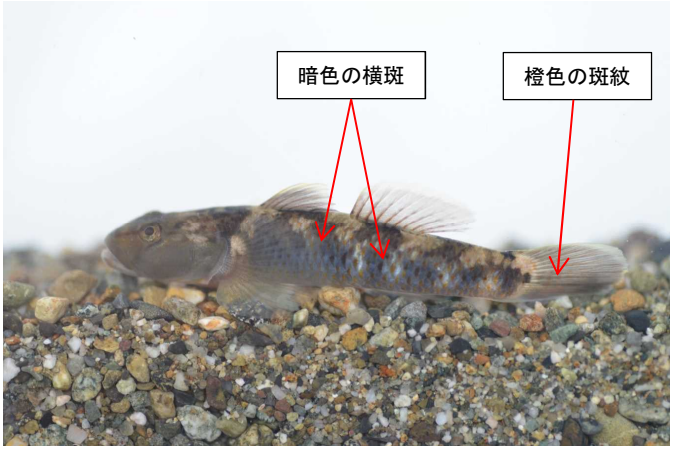


種　名　：**コクチバス**
（スズキ目　サンフィッシュ科）
分　布　：北アメリカ（原産国）
生息環境：湖沼や河川の中下流域に生息する。低水温に対する耐性が強く、また流水域にも適応できる。
体　長　：30 ～ 50 cm くらい
外来種：特定外来生物（外来生物法）

特徴：オオクチバスに似るが、口は小さくて上あごの後端が眼の中央下まで達しない。北米での報告によると、雌１匹当たりの抱卵数は 5,000 ～ 14,000 個であり、体サイズの大きな雌ほど多くの卵を産む。雄が作ったすり鉢状の巣で産卵が行われる。雌の産卵後、雄が卵および仔魚を保護し、体長 10 mm 前後になった仔魚は親魚の保護を離れる。繁殖期は 5 ～ 7 月。原産地では春から初夏にかけて水温 13 ～ 20 ℃であれば産卵する。捕食や競争を通じ、様々な在来生物に直接的または間接的な影響を及ぼす。オオクチバスよりも低水温に耐え、流れのある中流域にも生息可能である。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●	●	●		●



種　名　：**トウヨシノボリ（スズキ目　ハゼ科）**
分　布　：琉球列島を除く全国に分布する。
生息環境：淡水湖と汽水湖およびその流入河川に生息する。
体　長　：7 cm くらい

特徴：体側には、6 ～ 7 個の暗色の横斑が相互につながって並ぶ。体の模様は、目から鼻筋にかけて赤や黒の線である。尾鰭には名前の由来となった、橙色の斑紋が見られる。しかし、小さな沼などに生息する個体は不明瞭な場合が多い。シマヨシノボリとともに個体数の多いヨシノボリで、全国の河川や湖沼に広く生息する。ヨシノボリ類中、最も成熟体調や外部形態に大きな変異が見られる。産卵期は 5 ～ 6 月で、水中に沈んだ木や、石の下面を雄が掘って産卵床を作り、メスを導き産卵をさせる。産卵後はオスがメスを追い出して、巣穴で仔魚が孵化するまで卵を継続して保護する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●		●			